

図書館だより

1号

本号の特集

「私の薦める一冊の本」紹介文入賞者決定！

書評コンテスト「私の薦める一冊の本」紹介文の入賞者が決定しました。今年は、328点の応募があり、各学科より選出された教員により厳選した結果、9作品が入賞作品として決定しました。

入賞した以下の学生には、1/6(水)に焼山図書館長より図書カード2千円分が贈呈されました。本号では、入賞作品を紹介します

入賞者

村上琢真（機械工学科4年）	「旅に出よう、滅びゆく世界の果てまで」萬屋直人
堤 悠一郎（建築学科3年）	ノルウェイの森 / 村上春樹
江崎公志朗（2年1組）	進化する強さ / クルム伊達公子
佐藤 匠（2年2組）	植物が出現し、気候を変えた / ティウッド・ピアリング
藤井 玲花（2年2組）	君想曲（きみそうきょく） / 新堂冬樹
山内 天彗（2年4組）	それでも僕は夢を見る / 水野敬也
鷺崎 結衣（2年5組）	モモ / ミヒヤエル・エンデ
阿蘇品 彩花（物質工学科1年）	復讐したい / 山田悠介
有村 南海（建築学科1年）	ラブレター物語 / 丘修三



ラーニング・コモンズ

News ‘知の集い処’がもう一部屋増えました

これまで、最高で6人、3グループの利用しかできなかつた“知の集い処”が、4グループの利用が可能になりました。しかも、新しい部屋は、窓のある明るい個室になっています。ここでは、新しい部屋の紹介と、“知の集い処”を使ったことのない方のために、全体の紹介もします。是非、気軽に利用してみてください。

New 知の集い処3(1グループ利用可)



H27年12月より新設された部屋です。

閲覧室の外のため完全個室で、大型ホワイトボードも設置しています。専攻科生のグループ学習やゼミなどでご利用ください。

知の集い処3の特徴

- ・竹のブラインドで落ち着いたインテリア
- ・大型ホワイトボードを設置
- ・完全個室、空調完備

知の集い処1(2グループ利用可)



知の集い処で一番広い部屋です。閲覧室とはガラスで区切られた空間で、2グループの利用が可能です。大きなホワイトボードも備え付けていますので、グループ討議やプレゼンなどの利用に最適です。

知の集い処2(1グループ利用可)



完全個室の部屋で、テレビモニターも備えています。少人数ゼミやグループでのビデオ学習などにも利用できます。

●利用方法

知の集い処の利用を希望する場合は、カウンターで手続きをしてください。予約も可能です。

●利用対象

本学所属の教職員と学生
ただし、知の集い処3は、原則教職員と専攻科生です。

「私の薦める一冊の本」紹介文入賞作品紹介



「旅に出よう、滅びゆく世界の果てまで」
萬屋 直人著
機械工学科4年 村上 琢真

今年の夏季休暇中、私は50ccのカブで北海道を一周、キャンプツーリングを楽しんだ。僕にそのきっかけを与えてくれたのがこの作品である。

あらすじは、名前、地名などの情報、人の採食、影などが段階的に失われ、最後は存在が消える「喪失症」が蔓延する世界で、二人の高校生の男女が北にある島（北海道）をスーパーカブで旅するというもの。

舞台は世紀末であるが、二人の道中で起こるトラブルや、そこで出会う人々との束の間のひとときに流れる、ゆっくりとした時間が心地良い。だが、その間に喪失症によって消えた人を目の当たりにしたときの物悲しさによりまた、作品にグッと引き込まれる。

二人が乗っているスーパーカブは原付きであり当然スピードは出ない。だがこの作品に描かれている、ゆっくりとした旅の魅力を教えてくれた。是非一度読んで、スーパーカブと、その旅の良さに気付いてもらいたい。



「進化する強さ」
クルム伊達公子著
2年1組 江崎 公志朗

うん！ 今はこれだ！ とすぐに頭に浮かんだのがこの本です。実はこの本、母のバイブルなのです。母がこの一冊に出会ってから、たびたび「読んでごらん！ 背すじがのびるよ」と言わされてきました。何のこっちゃ？ と思いながらサラサラと読み流すはずで本をめぐり始めたのですが、クルム伊達公子さんの自分を信じて可能性を求める、挑戦していく姿に感動し、丸まった背中をバシッとたたかれたような気がしました。そして時折みせる弱さにも、素直にしなやかに今を生きている彼女らしさを感じました。私の場合、母とは違つて、その一步を踏みだす勇気をもらった一冊です。

「誰もが内に秘めた力を持っている。それを發揮するきっかけがあればいい。少しの勇気と行動で自分の世界は変わる」と彼女は言います。

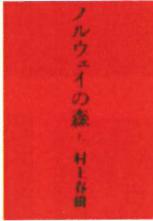
「あんた、まだ17歳でしょ！ ほらほらっ！」と気合を入れられたようにも感じました。



「君想曲(きみそうきょく)」
新堂 冬樹著
2年2組 藤井 玲花

君想曲……、それは男性が女性に対する思いを綴った曲。主人公の婚約者、遼が君想曲の作詞に取り組んでいる中、最後の一章節だけを残し、未完成のまま不慮の事故にあってしまう所から物語は始まっていく。

あなたには、今大切な人がいるだろうか。



「ノルウェイの森」
村上春樹著
建築学科3年 堤 悠一郎

誰かに手紙を書きたくなかった。これが読み終わったあとで率直な感想だ。登場人物のワタナベは、自分の身の周りで起きた出来事やそのときの自分の気持を手紙にして、様々な人に送る。僕は最近、誰かに手紙を書いただろうか。手紙なんて使わなくても、インターネットを使って文章を送れば良い。そう思い込んでしまってはいないだろうか。

急速に我々の生活と密接な関係になりつつある情報化社会で、我々は人のつながりをどう捉えているのだろう。どんな人でも、「友だち」とひとくくりにされがちになっていると感じる。そこには、先輩と後輩、親と子など、細やかな差異があるに違いない。

僕は、本当に大切な人には手紙を書きたい。
そこには文章以外に、その人の温かみ、感情といった、デジタルでは伝えられないものがあるから。

多くの人が手紙を使って、心を通わせる。そんな社会も素敵だと感じませんか。



「植物が出現し、気候を変えた」
デイヴィッド・アーリング著
2年2組 佐藤 匠

あなたはふと、私達が生きている時代のずっと前の時代に思いを馳せた事は無いだろうか。例えば恐竜の生きていた時代を、得た情報を頼りに想像し、心をときめかせたことが、一度や二度では無い方も多いことだろう。

では、もっと前の時代についてはどうだろうか。恐竜の大量絶滅の他にも三度、大量絶滅があった事は知っているだろうか。ではその原因は？

地球に生物が誕生してから、実に様々な出来事が起こつた。生物が、地球の環境を変えていった。それはもう、そちらのフィクションとは比べ物にならないほど突飛で、その事実を知る度、感動するに違い無い。

本書は地球の過去を、植物の化石からひも解いてゆく。植物生理学、古生物学、進化生物学等、様々な学問を駆使し、実に生き生きと語っている。

本書を読み終えた時あなたは、きっと興奮を覚えることだろう。

事故の後遺症「びまん性軸索損傷」により遼の人格が変貌していくのに戸惑いを隠せない主人公、聖のように、自分にとっての大切な人が変わり果ててしまったり、自分に対して愛情のかけらも感じられないような人になってしまっても、変わらぬ想いを貫くことはできるだろうか。私もこの主人公のように戸惑い苦しみ悲しむようなことがあっても、心が揺らがないような強い決心をもって大切な人をそばで支えていくような人になりたい。

この物語はどんな困難が待ち受けていたとしても、自分の気持ちを一番に持ち、行動することが一番大切だということを教えてくれる。



「それでも僕は夢を見る」

水野 敬也著

2年4組 山内 天彗

誰にでも夢がある。そして誰もがその夢が叶えばいいと思っている。のために努力をする人もいる。気長に待つ人もいる、根気よく粘る人もいる。でも、全員の夢が叶うはずがない。叶う人もいれば叶わない人ももちろんいる。それでも夢はいつまでもついて来る。夢はいつでもそばにいるのだ。

そしてこの本の主人公も同じく夢を見てきた。努力もした。気長に待った。根気よく粘りました。でも夢は一つも叶わなかつた。それでも夢は付いてきた。でも、ついに主人公は夢を捨てた。何があつても夢を見ることを諦めた。そのうち年を取り重い病気になった。いつ死んでもおかしくない、そんな時に夢は現れた。

自分も夢を見ている。それが叶うかは自分でもわからない。叶わないかもしれない。でも、叶わなくとも自分には夢がある。その夢が叶うまで自分は離れたくない。だって夢は一番の親友であり、自分だからだ。



「復讐したい」

山田 悠介著

物質工学科1年 阿蘇品 彩花

この作品を読んでいる途中で思い出されたのは、以前ニュースでみた「山口県光市の母子殺害事件」でした。当時、18才の少年により主婦と11カ月の赤ちゃんを惨殺し、財布が盗まれた事件です。一審判決で無期懲役の判決後（少年法により6～7年で更生され、出所することが多い）、死刑を望む被害者の旦那さんが「加害者の少年を早く社会に出してほしい。そうすれば私が殺す。」と発言した場面を思い出しました。

もし私が家族など愛する人を殺されたならば、事件の被害者の旦那さんや作品の主人公と同じ気持ちになり「仇を打ちたい」と考えてしまいます。

このような復讐が実現するのがこの作品の中の「復讐法」です。ルールさえ厳守すれば犯人を殺しても良いというスリルあふれる作品です。復讐とは何なのか、そして復讐の先には何があるのかあらためて考えさせられる作品です。

図書館からお知らせ

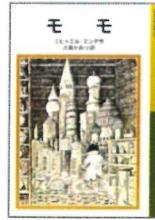
●ブックハンティングの開催

9/10(木)にジュンク堂福岡店で1回目のブックハンティングを実施しました。4名の学生が33冊の本選び、図書の紹介POPも書いてくれました。

1/16(土)には、2回目も開催されます。

興味のある方は、図書館掲示のポスター又は、図書館HPをご覧ください。

<http://www.or.ariake-nct.ac.jp/lib/>



「モモ」

ミヒヤエル・エンデ著

2年5組 鷺崎 結衣

穏やかでゆとりのある街の人々と主人公モモのゆったりとした生活。そこに介入してきた灰色の男たちにより街の人々は時間を節約し、人生の無駄を省くようになる。友人との交流が少なくなっていくモモは盗まれたり節約されたりした時間を取り戻すために奮闘する。

人生における時間の役割を考えさせられる本だった。限られた時間を無駄にしたくない、良質なものにしたいと考えることは、一見、時間を大切にしているように見える。しかし、それで多くの予定を立て、埋まったスケジュールを得意気に誇り、忙しいと言うことには引っかかりを覚える。

もちろん現代においてスケジュールを立てる事は悪いことではない。むしろ、私も数々の予定に溺れているが、ふと自分の時間の使い方が良質なものか考えてしまう。

私は、めまぐるしく変化する現代社会に生きる、時間にゆとりのない大人にこそ、この本をぜひ手にとってほしい。



「ラブレター物語」

丘 修三著

建築学科1年 有村 南海

私はこの物語を読んで、ラブレターはいいものだなあと思いました。今はメールなどで簡単に連絡することができますが、それでは本当の気持ちが相手に伝わらないと思います。確かに私もメールなどで告白されるより、手紙の方が数倍うれしいです。

ラブレターは、自分がドキドキしながら、少しでもよく見せようがんばってきれいに書いた字で、心の中にある自分の大切な思いをめいいっぱい伝えられるものなのです。

今の便利な世の中だからこそ手書きのラブレターのステキな世界が私を魅了しました。

私はこの本を通してラブレターで自分を気持ちを素直に言葉にして伝える事が大切だということを学びました。また、私はこれから、自分の気持ちを周りの人に伝える努力をしていきたいと思いました。

ぜひ、みなさんにもラブレターの素敵世界を知ってほしいです。時間がある時に読んでみて下さい。

●英語多読図書の紹介POPを展示

阿嘉先生の授業で書いてくれた図書の紹介POPを展示しています。

●学科推薦図書の購入

各学科の先生方に推薦していただいた本を購入しました。新着コーナーに配架しています。

●Nexus7の館内貸出開始

カウンターで貸出手続きをすればだれでも利用することができます。

2016年度美術ギャラリー作品紹介



『窯出しのあと』
藤吉美保子



『矩手水門』
小柳規久絵



『白い樹』
桑野禎子



『竹の秋』
田中千鶴



『子を抱く狛犬』
奥苑和司



『椿』
木村和子



『祭の日』
石井保



『祭りの日』
石井保



『かわいい「ルナ」ちゃん』
木戸直道



『小岱山』
西川正人



『黎明』
塚本和美



『田子の浦』
山部の赤人の歌より



『中国の屋根』
院丸憲之



『望郷』
黒田満里子



『風の記憶』
牟田志津子



『杉並木』
堆和則



『柘榴』
松尾忠之



『朝陽阿蘇』
加治屋陞



『芽吹く』
横山多佳枝



『花』
岩本久子



『のどかな一日』
永井正文



『ガーデン』
田中陽子



『万両』
上村恵子



『長い髪』
角久仁子



『椿の頃』
濱田敬子



『秋の一日』
鶴由海子



『優しい時間』
清水正敬



『陽だまり』
古賀悦子



『雨の光景』
木下恵介



『僕とお母さん』
中村信也



『踊り子達』
高口博文



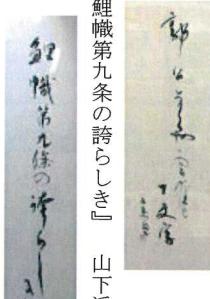
『灯籠踊り』
渡辺和彌
『千人灯籠踊り』
高口博文



『友達』
中村信也



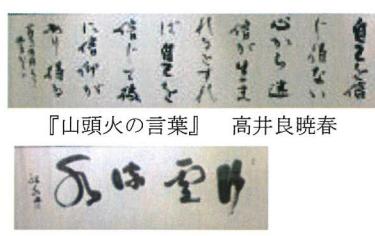
『罪』
中村信也



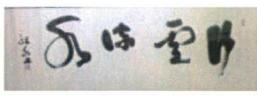
『鯉幟第九条の誇らしき』
山下渓泉



『善夜』
山口修一(八石)



『山頭火の言葉』
高井良暁春



『行雲流水』
川崎緑水(みどり)

毎年、大牟田市美術協会の方々のご協力で作品の入替作業を行っています。
今年も11/22(土)に作品を入れ替えてます。是非、鑑賞にご来館ください。